

Preface

継承と革新へのパラダイムシフト

武市えり子

Trend

特別企画鼎談 歯科医師になってよかったですと思える、国民から感謝される歯科界を目指したい  
高橋英登 鶴井初子 松尾 通 吉岡重保 1

Review & Articles

総説1 歯科における保健指導(食事・栄養指導を中心に)	萩原芳幸 安田裕康 秋田大輔	13
総説2 オーラルフレイル: 概念根拠から管理まで	平野浩彦 白部麻樹	19
総説3 「口から食べるプロジェクト」と高齢者医療	安田広樹	26
総説4 要介護高齢者の口から食べる幸せをサポートするための早期経口摂取開始と包括的食支援	小山珠美	31
総説5 防衛医学上の知見によって災害発生時にその発症が推察されているNUG(トレンチマウス)について	片山幸太郎	36
総説6 令和における孤独死の実態と今後の課題および予防策	稻村啓二	42
総説7 歯科医師国家試験における今後の展望と人口動態統計について	岡田優一郎	45

Suggestions

提言1 DX(デジタルトランスフォーメーション)が可能にする歯科領域の遠隔教育および遠隔医療支援 ～5G(第5世代移動通信システム)・AR・VR・3D Printing模型を用いた取り組み～	宇野澤元春	50
提言2 歯科医院のDX化により示される未来 —歯科医院のデジタル変革: 技術の進歩、課題、そして未来の展望—	山内普史	54
提言3 運動療法「バタカラ骨盤底かかと落とし」について	宝田恭子	58

Topics

トピックス 口腔疾患と非感染性疾患(NCDs)の関連性	花田信弘	61
Explanation 解説 ポツリヌス、ヒアルロン酸の歯科での活用	古屋敷有子	64
Suggestions & Reports 提言・報告1 フェムデンティス部会: 歯科とフェムテックの関わり「フェムデンティス」	坂本紗有見	67
提言・報告2 プロフィー部会: 米国式予防歯科プロфиーがアメリカからやってくる	宮田夏絵	69

Columns

コラム1 芳香の新たな可能性としての蚊の忌避効果・誘因効果について 千葉栄一 71

コラム2 歯科医院における福利厚生制度(役職員の将来の資産形成)について 安藤正道 74

Summary & Proceedings

総括 日本アンチエイジング歯科学会 第16回学術大会 80

講演論文1 入ると出るを制すヘルスケア～ペップトークについて～ 今井一彰 81

講演論文2 色と美しさにこだわってアンチエイジング 菊池多佳子 84

図書紹介 87

第17回学術大会を終えて 添島正和 90

第18回学術大会へのメッセージ 中根敏盛 96

●案内

認定医取得者一覧	98	ホワイトニングエキスパート規則・資格制度施行細則	114
会則・細則	99	ベリオ フードコーディネーター規則・	
認定医制度規則・施行細則	102	資格制度施行細則	115
認定歯科衛生士制度規則・施行細則	107	顧問	116
サプリメントアドバイザー規則・資格制度施行細則	110	役員	117
ピューティアドバイザー規則・資格制度施行細則	111	事業部会	118
メディカルアロマコーディネーター規則・		広報・会誌委員会から投稿のお願い	武内博朗 119
資格制度細則	112	投稿規程	120
バクテリア・セラピスト認定制度規則・施行細則	113	編集後記	山内普史 121

※本号より広告掲載企業をご紹介頂いた会員に、ご紹介頂いた企業のリコメンドをご執筆いただき、掲載させていただきます。広報・会誌委員会では皆様のご紹介をお待ちしております。

後付広告掲載 和田精密歯研(株)

和田精密歯研株式会社様は全国55か所に拠点を持ち、創立65周年を迎える、皆様よくご存知の歯科技工所です。通法のアナログ法に加え、デジタル法にも力を注ぎ、あらゆる技工製品を製造なさっているほか、インプラントシミュレーションソフト、各社インプラントシステムや口腔内スキャナーなど幅広い商品も取り扱っていらっしゃいます。

また「Oral Health」の実現に向け、歯科医師、スタッフに向けての訪問説明会なども積極的に開催なさっていますので、どうぞご用命ください。(志田佐和子)

後付広告掲載 Wantedly(株)

Wantedly株式会社のサービスは、これから人口減少し働き手が少なくなる中、歯科医院経営に新たな視点をもたらします。

他業種に比べて福利厚生が弱いと言われる中、人材採用やチーム構築に特化したプラットフォームもあり、優れた歯科スタッフを見つける手助けや、その採用スタッフの長期継続にもお役に立てる可能性があります。当院では、Perkという福利厚生サービスはスタッフ利用率が90%を超えて、継続雇用に役立っております。

(中原維浩)



3. 新聞、郵便物、牛乳等が溜まっていた場合には行政機関、警察等に通報する。  
孤独死は今後の超高齢社会の重要な問題であるが、官民一体で予防策を立てるのが急務と考えられた。

## 文献

- 1) 内閣府. 高齢社会白書. 2023. p.2.
- 2) 厚生労働省. 2019年国民生活基礎調査の概況. 1世帯数と世帯人員の状況. p.4.
- 3) 厚生労働省. 自殺対策白書. 2022. p.19.
- 4) 熊谷章子, 三浦廣行. 岩手医科大学法医学解剖事例からの孤独死に関する調査報告. 岩手医大誌. 2023. 47. 137-145.
- 5) 額田 燕. 孤独死. 東京: 岩波書店. 1999. p.272.
- 6) 東京都監察医務院. 東京都23区における孤独死の実態. 東京都監察医務誌. 2010.

## 総 説

## 歯科医師国家試験における今後の展望と人口動態統計について

東京デンタルスクール 代表  
岡田優一郎

令和5年1月28日、29日に第116回歯科医師国家試験が行われた。第116回歯科医師国家試験は、新たな出題基準となる令和5年版歯科医師国家試験出題基準に基づいて出題された初の歯科医師国家試験となった。

本論文では、本試験をふまえ、今後の歯科医師国家試験の展望を人口動態統計や社会構造などの変化を絡めながら述べたい。

### 1 近年の歯科医師国家試験について

第116回歯科医師国家試験(以下、本試験)の全体の合格率は、63.5%と第115回歯科医師国家試験より若干の上昇がみられた。平成26年3月に行われた第107回歯科医師国家試験において合格率の大幅な低下があつてからというもの、歯科医師国家試験の合格率は概ね60~65%前後で推移している(図1、表1)<sup>1~4)</sup>。

本試験は、基本問題を中心とした比較的スタンダードな出題傾向であった。それを反映してか、合格点のボーダーも難易度の高かった114回、115回と比較して上昇がみられ、本試験の総論(115回までのA領域に相当すると考えられる)、各論(115回までのB、C領域に相当すると考えられる)のボーダーはそれぞれ64.3%、68.9%であった。

特に1日目においては過去問題との類似性も多いスタンダードな内容が出題されていた。2日目午後のD問題では、過去に歯科医師国家試験に出題実績のない内容も見受けられたものの、概ね近年の歯科医師国家試験のコンセプトである「より思考・理解を要求する試験」という出題傾向は引き続き踏襲されていた。したがって、全体的には基本的な問題をいかに確実に正解できるかということが重要視される試験であったといえる。

また、医学、法医学など近年の出題分野の拡大は引き続きの傾向としてみられた。令和5年版歯科医師国家試

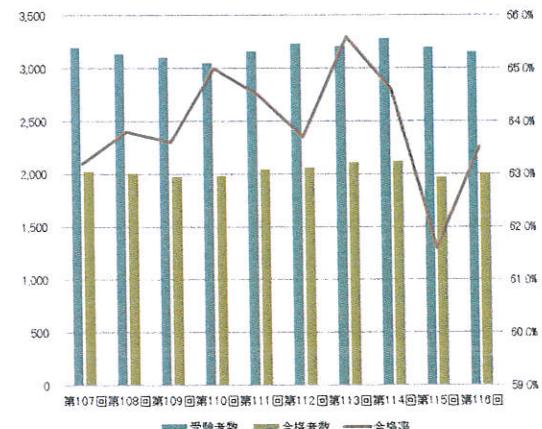


図1 第107~116回歯科医師国家試験の受験者数、合格者数、合格率(全体会)

表1 第107~116回歯科医師国家試験の受験者数、合格者数、合格率(全体会)

回数	受験者数	合格者数	合格率
第107回	3,200	2,025	63.2%
第108回	3,138	2,003	63.8%
第109回	3,103	1,973	63.6%
第110回	3,049	1,983	65.0%
第111回	3,159	2,039	64.5%
第112回	3,232	2,059	63.7%
第113回	3,211	2,107	65.6%
第114回	3,284	2,123	64.6%
第115回	3,198	1,969	61.6%
第116回	3,157	2,006	63.5%

験出題基準に追加された和漢薬については、直接の出題こそなかったものの選択肢に和漢薬の語句を含む問題が出題されており、来年以降本格的な出題が予想される(図2)。

116A-80  
在宅医療におけるポリファーマシーの原因になるのはどれか。  
2つ選べ。  
a 併科受診  
b 和漢薬への変更  
c 多職種連携の欠如  
d 服薬カレンダーの利用  
e 後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更  
正答 a, c

図2 和漢薬を含む問題

116C-8  
Angle II級2類で大きな値を示すのはどれか。2つ選べ。  
a 頬面角  
b SNB角  
c ANB角  
d 上顎中切歯歯軸傾斜角  
e 上下顎中切歯歯軸傾斜角  
正答 c, e

図3 X2タイプ(正答を2つ選ぶタイプ)の必修問題

116D-10  
上下顎歯槽基底部の前後的位置関係を評価するのはどれか。  
1つ選べ。  
a Y軸角  
b 頬面角  
c SNP角  
d A-B平面角  
e 上顎突出度  
正答 : d

図4 基本的な内容であるが、今までに出題されたことのない観点からの出題であった歯科医師国家試験問題

## 2 歯科医師国家試験出題基準と近年の出題傾向

最近10年の歯科医師国家試験(第107～116回)では、平成26年版歯科医師国家試験出題基準、平成30年版歯科医師国家試験出題基準が採用されていたが、今回(第116回)より令和5年版歯科医師国家試験出題基準が採用された。歯科医師国家試験出題基準では、少子高齢化や疾病構造の変化など社会的ニーズに対応した改変がなされる<sup>5,6)</sup>。従前の歯科医師国家試験出題基準では、

- ・歯科医師として必要な高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する出題(全身疾患、検査および多職種連携等に関する出題)
  - ・「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定等を考慮した歯科疾患の予防管理に関する出題
  - ・医療保険、介護保険等を含む現行の社会保障制度に関する出題
  - ・口腔と全身の関係に関する出題(禁煙指導と支援、食育と食の支援など)
  - ・救急災害時の歯科保健医療対策、歯科法医学に関する出題
  - ・高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関する内容
  - ・地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容
  - ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容
  - ・医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容
- といった内容に重点が置かれていた。

- 令和5年版歯科医師国家試験出題基準では、
- ・歯科医師として必要な和漢薬を服用する高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する内容
  - ・医療のグローバル化に伴い歯科医師による国際貢献がこれまで以上に求められている現状をふまえた国際保健に関する内容
- の出題が追加されるとともに、口腔領域に関連して現れ

る精神・心身医学的病態として歯科心身症のより具体的な取扱<sup>7,8)</sup>や全身管理に留意すべき疾患の拡充なども図られている<sup>7)</sup>。また、出題形式および採点基準にも下記変更がみられた。

- ・必修問題における、X2タイプ(選択肢から正答を2つ選ぶもの)の出題も可能となる
- ・従来3領域(領域A、領域B、領域C)であった必修以外の合格基準を2領域(総論、各論)に変更する

特に、8割以上の正答率が要求される必修問題にX2タイプが採用されることとなり、学生の警戒感も強まったが、本試験で実際に採用されたX2タイプの必修問題は80問中4問であり、その4問も基本的な内容を問うものであった。X2タイプの問題とはいって、「基本的な事項を問う」という範疇での出題であったと思われる(図3)。

また、セファロ分析という基本的な内容であるが、歯槽基底部という今までに出題されたことのない観点からの出題など(図4)、解釈にギャップが生じやすい問題が2日目の必修問題を中心に出題されていた。加えて、今まで2領域に分かれていた各論の内容が1領域に統合されたことにより、特に臨床系の苦手科目が領域に与える影響が軽減される。それゆえ、今後の試験においては領域別点数のボーダーは今まで以上に上昇することも予想される。

## 3 共用試験の今後の潮流

歯学部において、歯科医師国家試験前の全国一律の試

験として、2005年よりComputer Based Testing(CBT)、Objective Structured Clinical Examination(OSCE)が行われてきたが、それに加えて診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC PX)が2020年度より正式実施となった<sup>9,10)</sup>。の中でも、CBTは各大学において進級判定の基準に大きく関わる。ここ数年、歯学部のCBTの再試験該当者数、2年連続再試験者数は増加傾向である。その背景には大学のCBT基準の厳格化などがあげられる。令和6年より、歯学部のCBTとOSCEは歯科医師法で公的化される試験となることが決定していることから、さらなる合格基準の厳格化が予想される<sup>11)</sup>。

また、歯科医師国家試験の難関化に伴い、低学年からの留年が増加しているのは従前からの傾向ではあるが、特に1年次、2年次での留年がここ数年増加傾向にある<sup>12)</sup>。歯学生におけるリーディングスキルテストの結果において、進級者が留年者より有意に値が高いという報告もあり<sup>13)</sup>、文章読解力など大学入学前でのスキルの強化の必要性、一部の学生に対する指導の必要性も考えられる。

従前、医学部ではCBTの結果が卒業試験の合格とも関連があることが示されていたが<sup>14)</sup>、歯学部においても同様にCBTの結果と卒業試験の結果、歯科医師国家試験の合格率に関連があることが複数の調査によって示されている<sup>15,16)</sup>。

## 4 歯科医師に求められるニーズと歯科医師国家試験

歯科医師国家試験において、「歯科医師として必要な、高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する出題」とし多職種連携等に関する出題がなされるのは先述したとおりである。さらに、疾病構造の変化や少子高齢化による社会構造の変化も無視できない。2021年の年少人口(15歳未満の人口)の割合は11.6%であり、合計特殊出生率は1.30であった。一方、2021年の老人人口(65歳以上の人口)の割合は29.1%、老年化指数は245.0と高齢化はより顕著となっているため<sup>17)</sup>。歯科医師国家試験でも全身疾患や高齢者歯科など、高齢者の特性についての問題の出題が増加傾向にある。

たとえば、摂食嚥下リハビリテーションに関する問題の出題は近年重要事項の1つとなり、歯科医師国家試験合格のために知識の習得が必須の分野となっている(図5)。また、チーム医療や多職種連携を意識した問題も歯科医師国家試験に出題実績がある。

- リハビリテーションに関する問題で歯科医師国家試験に出題実績のあるものとして、
- ・摂食・嚥下訓練(直接訓練、間接訓練)

110D-15  
74歳の男性、摂食・嚥下リハビリテーションを目的に紹介受診した。舌癌の診断で舌半側切除術、左下頸区域切除術、頸部郭清術および皮弁と再造プレートによる再造術を受けたという。嚥下造影検査で検査食の梨状窩への残留を認めた。実施した摂食・嚥下機能訓練時の写真(別冊No.15)を別に示す。

- この訓練の目的はどれか、1つ選べ。
- a 喉頭挙上の強化
  - b 声門閉鎖の強化
  - c 頸部可動域の拡大
  - d 呼吸筋の筋力増強
  - e 鼻咽腔閉鎖の改善

正答 : a

No.15 (D問題15)



図5 リハビリテーションに関する歯科医師国家試験の問題

- ・栄養摂取方法の選択基準

- ・嚥下調整食分類

などがあり、問題数やその難易度も上昇傾向にあると考えられる。

令和2年の医師・歯科医師・薬剤師統計では、医師339,623人、歯科医師107,743人、薬剤師188,982人であったが、都道府県別にみた人口10万対の歯科医師数では、概ね都市部で多く、地方で少ない傾向が示された(図6)<sup>18)</sup>。特に地方部では高齢者の割合が高く、近年の出生数低下や少子高齢化といった社会構造の変化に加え、乳歯・永久歯とともにDMFT指数の低下が認められるよう、う蝕の減少(図7)<sup>19)</sup>などの疾病構造の変化も認められる。それゆえ、う蝕やその予防はもちろんのこと、摂食嚥下リハビリテーションなどその地域特性に合わせた治療や連携が求められると考えられる。たとえば、医学部では卒前教育にへき地医療の実習を組み込むことで学生のモチベーションが上昇したという報告もあり<sup>20)</sup>、卒前教育や臨床研修などの早期卒後教育においても地域特性に合わせた研修の充実も今後必要となるであろう。

## 5 人口動態統計と歯科医師

わが国が少子高齢社会であることは先述したとおりであるが、高齢化は歯科医師の年齢構造にも影響を及ぼし得る。令和2年の医師・歯科医師・薬剤師調査における医療施設に従事する歯科医師数の年齢階級別の調査では、

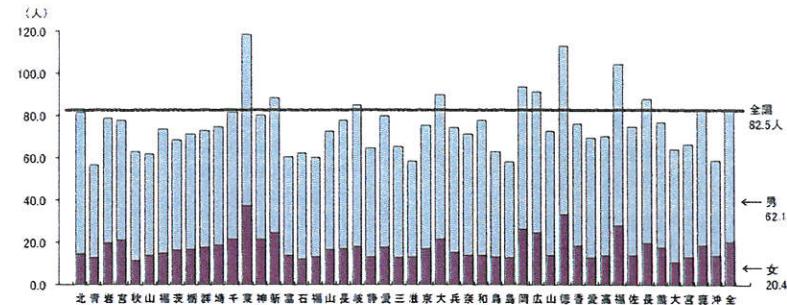
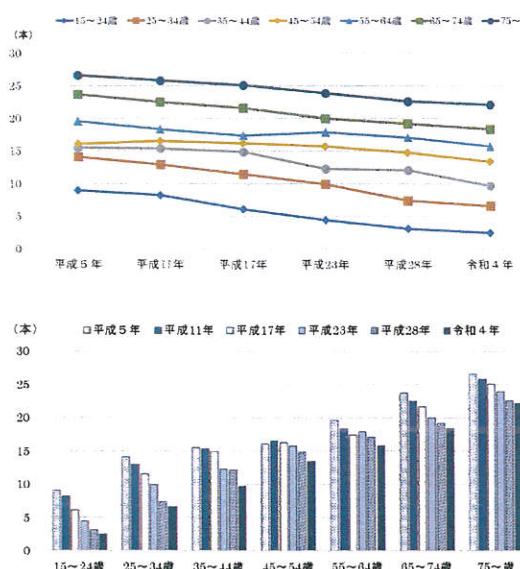


図6 都道府県（従業地）別にみた医療施設に從事する人口10万対歯科医師数（文献10より引用）

図7 1人平均DMF歯数(DMFT指數)の変化（文献11より引用）  
平成5年（1993年）以前と平成11年（1999年）以降では、それぞれの未処置歯の診断基準が異なる。

「50～59歳」が最も多く、「60～69歳」が次いで多い<sup>21)</sup>。高齢化は今後より進行し、厚生労働省での将来推計人口の概要では、2070年には高齢化率が38.7%まで増加すると予想されている<sup>22)</sup>。したがって、これらの年齢階級の歯科医師が引退していくことが予想されるため、歯科医師の総数は減少していく可能性が考えられる。もちろん質の担保は必要であるが、将来的な歯科医師の減少に対し、歯科医師国家試験などでも早い段階での対策は必要ではないかと考えられる。

## 6 考察

歯科医師国家試験の難関化、出題基準の改定を受けて歯学部はそれに対応すべく低学年からの留年、試験の合格基準の厳格化などの対策が行われている。本年は出題

基準の改定が行われることもあり、それを警戒してか卒業資格を与える学生数を少なくした大学もいくつか存在した。学生も「過去問の答えを覚える」「一夜漬けで乗り切る」学習では定期試験のような比較的試験範囲の狭い試験には対応できてもCBTや卒業試験、国家試験といった試験範囲の広い試験には対応が難しい。大学側における成績不振の学生に対するサポートが引き続き必要なのは論を俟たないが、学生が低学年の段階から試験範囲が広い総合試験などにも対応可能な学習習慣を身に着けるための学年全体へのサポートも今後必要性が増すのではないかだろうか。

近年の歯科医師国家試験では、「基本的な内容をより回りくどく問う」問題が増加している。このような問題に対応するには基本的な内容の積み重ね、ひいては大学入学以前の学習習慣や能力も影響し得る。

医師国家試験では、試験問題のCBT化へ向けた取り組みも検討されている<sup>23)</sup>。今後、歯科医師国家試験も同様な傾向になる可能性も否定できない。AIを用いた治療・診断など今後の技術の進歩により、歯学生が学ぶべき知識はより広く、深くなる可能性が考えられる。それを鑑み、歯科医師国家試験はより知識を統合し、応用する問題が増える方向に向かうことが考えられる。しかしながら、それは実習や授業で触れる機会の少ない内容ではなく、基本的な範囲であることが望ましいだろう。

昨今の社会構造の変化、少子高齢化の進行に伴う歯科医師の平均年齢の上昇を鑑み、先述した通り歯科医師の総数は減少していくことも予想されるため、今後歯科医師の人的資源の確保が課題となり得る。質の担保との両立の必要もあるが、歯科医師国家試験においても歯科医師数の減少に対策すべく合格者数や合格率の見直しなども必要となる可能性があると思われる。そのためにも、歯科医師国家試験やそれに至るまでの試験の内容はより基本に即した内容であることが望ましいと推察される。

第116回歯科医師国家試験は比較的基本的な内容の出題も多く、大学での学習の成果が發揮しやすい試験で

あったように思える。歯科医師国家試験の出題が引き続き同じ方向性で進んでいくことが必要といえよう。

## 謝辞

本論文の執筆にあたりご協力いただきました東京デンタルスクール岩脇清一先生に深謝いたします。

## 文献

- 1) 厚生労働省. 第116回歯科医師国家試験の合格発表について.
- 2) 厚生労働省. 第115回歯科医師国家試験の合格発表について.
- 3) 厚生労働省. 第114回歯科医師国家試験の合格発表について.
- 4) 歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書. <https://www.mhlw.go.jp/stf/10803000/000746147.pdf>
- 5) 厚生労働省. 平成26年版歯科医師国家試験出題基準改定の概要.
- 6) 厚生労働省. 平成30年版歯科医師国家試験出題基準改定の概要.
- 7) 令和5年度版. 歯科医師国家試験出題基準.
- 8) 岩脇清一, 須賀隆行, 高尾千紘. ほか. 歯科心身医学における卒前教育の充実の必要性. 未病と抗老化. 2021; 30: 46-51.
- 9) (公社) 医療系大学間共用試験実施評価機構. 歯学生診療参加型臨床実習に必要とされる 技能と態度についての学修・評価項目(第1版). [https://www.cato.or.jp/pdf/dentistry-osce\\_53.pdf](https://www.cato.or.jp/pdf/dentistry-osce_53.pdf)
- 10) 厚生労働省. 歯学生の行う歯科医業の検討について. <https://www.mhlw.go.jp/stf/10804000/000945492.pdf>
- 11) (一社) 日本歯学系学会協議会. 第18回講演会「共用試験の新しいルール」. [https://www.ucjds.jp/proceeding\\_file/20220621\\_lecture.pdf](https://www.ucjds.jp/proceeding_file/20220621_lecture.pdf)
- 12) 文部科学省. 各大学の歯学部歯学科の入学状況及び国家試験結果等. [https://www.mext.go.jp/content/20221004-mxt-igaku-100001063\\_5.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221004-mxt-igaku-100001063_5.pdf)
- 13) 櫻井裕子, 遊佐淳子, 菊地尚志. ほか. 奥羽大学歯学部学生の学業成績とリーディングスキルテスト成績との関連. 奥羽大歯誌. 2020; 47 (4): 87-94.
- 14) 富木裕一, 檜原 高, 岡田隆夫. ほか. 共用試験の成績は卒業試験と相関するのか?. 順天堂醫事誌. 2012; 58: 431-435.
- 15) 安尾敏明, 友藤孝明, 田村康夫. CBT得点と歯科医師国家試験の合格率との関係. 岐阜歯会誌. 2021; 48: 121-127.
- 16) 五十嵐千浪, 塩崎一成, 西山雄一郎. ほか. 本学歯学部共用試験対策センターの活動および共用試験結果と歯科医師国家試験結果との比較. 鶴見歯学. 2021; 47 (2): 75-82.
- 17) 総務省統計局. 2021年人口動態統計調査.
- 18) 厚生労働省. 令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況. P3. [https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/20/dl/R02\\_1gaikyo.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/20/dl/R02_1gaikyo.pdf)
- 19) 厚生労働省. 令和4年歯科疾患実態調査. 結果の概要.
- 20) Kawamoto R, Ninomiya D, Akase T, et al. The effect of short-term exposure to rural interprofessional work on medical students. Int J Med Edu. 2020; 11: 136-137.
- 21) 厚生労働省. 令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況. P21.
- 22) 厚生労働省. 将来推計人口(令和5年推計)の概要. <https://www.mhlw.go.jp/stf/12601000/001093650.pdf>
- 23) 河北博文, 上田 茂, 栗原博之. 21世紀の医療人養成と医師国家試験CBT化. 医学教育. 2022; 53 (3): 237-241.

## 日本アンチエイジング歯科学会誌投稿規程

1. 投稿は本学会会員に限ります。ただし、特に委員会が認めた場合は、非会員でも受け付けることがあります。
2. 内容は他の雑誌等に未発表のものに限ります。
3. 倫理規約を次のとおり規程いたします。
  - 1) ヒトを対象とした研究発表を行う場合には、ヘルシンキ宣言を遵守し、被験者および患者からインフォームド・コンセントを得ていること、また所属機関の倫理委員会の承認を得ていること等の明記を必要とします。
  - 2) 動物を対象とした場合には、所属施設の動物実験委員会等の承認を得ていること等の明記を必要とします。
  - 3) 患者を対象とした場合には、臨床所見や写真など診査資料および検体等に由来するデータの公表に際しては、患者から使用の承諾を得ていること等の明記を必要とします。またその際は、資料等から個人が特定されることのないよう、個人情報の保護を徹底して下さい。
4. 論文の種類は、原著、総説、症例報告、調査報告、短報、速報、解説、会議録（抄録）、図説、講義、座談会、Q&A、手紙、技術報告、コメント等とする。
5. 論文の形式は原則として表紙、緒言（目的・対象）、材料および方法、結果あるいは成績、考察、結論、文献の順に記載して下さい。なお原稿は次の体裁によつて下さい。
  - 1) 和文の場合は、平がなの新かなづかいの口語体とし、外国の人名、用語、文献などは原語で書いて下さい。ワープロ使用の場合はA4判用紙を用い、1頁当たり40字×20行、12ポイントで印字して下さい。
  - 2) 日本語のある用語は日本語で書き、専門用語は文部省・日本歯科医学会編の学術用語集または各学会、JISで定めた用語に準じて下さい。
  - 3) 原著論文の原稿には400語以内の英文抄録と、それに対応する和文抄録（800字以内）を添付して下さい。なお、抄録の末尾に5語以内のキーワードを記載して下さい。
  - 4) 英文抄録は、A4判用紙にダブルスペースで印字して下さい。
  - 5) 単位はSI単位系に準じて下さい。
  - 6) 表、図、写真是A4判用紙に貼付し、掲載希望箇所を原稿の欄外に朱書きで明示して下さい。トレース希望の場合はその旨明記して下さい。不鮮明な図や写真是、そのままでは受け付けないこともあります。
  - 7) 表紙には表題、著者名、所属（原著論文は英文併記）を記載し、その他にランニングタイトル（略題）20字以内、希望別刷数、連絡先の所在
- 地・電話番号を明記して下さい。
- 8) 引用文献は本文中に肩番号を付し、文末に引用順に次の要領で記載して下さい。
  - ①雑誌名は、原則として当該雑誌で規定されている省略法を採用して下さい。わが国のは医学中央雑誌に略記法が記されております。外国のものは、Index Medicusの中の List of Journals Indexed に略記法が記されています。
  - ②雑誌の場合の記載は、著者名、論文名、誌名、出版年（西暦）、Vol.（巻数）、No.（号数）、p.（はじめのページ-おわりのページ）。
  - ③書籍、単行本の場合は、著者名、書名、版表示、出版地、出版社、出版年（西暦）、総ページ数。
  - ④論文集（単行本）中の論文の場合は、著者名、“論文名”、書名、編者名、出版地、出版社、出版年（西暦）、p.（はじめのページ-おわりのページ）。
- 9) 原稿は表紙、和・英文抄録、本文、表、図、写真的順に綴り、通し番号をつけて下さい。
6. 校正は初校のみ著者校としますが、この際に大幅な字句の追加修正や図、表、写真などの内容の変更はしないで下さい。
7. 投稿料は雑誌掲載時の刷り上がり1頁につき10,000円、図・写真・表は1枚につき1,000円、別刷代は30部までを無料、追加分は1部につき100円をそれぞれ著者負担といたします（税抜金額）。
8. 原稿の採否および編集は委員会に一任して下さい。投稿された原稿は査読を行います。査読の担当者は、委員会が役員の中から人選し、依頼します。
9. 本誌に掲載された論文の著作権（Copy right）は本学会に帰属します。
10. 原稿、投稿票・承諾書は必ず下記までお送り下さい。なお、原稿の送付の際は、コピーを1部同封し、内容を記録した電子記録媒体を添付して下さい。必ず手元にもコピーを残しておいて下さい。
11. この規程にない事項は委員会で決定します。
12. 投稿締切日 8月20日  
投稿原稿送付先  
〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9  
一般財団法人 口腔保健協会内  
日本アンチエイジング歯科学会誌広報・会誌委員会  
Tel: 03-3947-8301 Fax: 03-3947-8073  
E-mail: kikaku4@kokuhoken.or.jp

## 編集後記

いつも「華齢」を手に取っていただき、誠にありがとうございます。この機会に、古の賢者が残した「学びて思はざれば則ち罔し、思ひて学ばざれば則ち殆し」という言葉を思い返してみました。

私たち歯科医師は、学んだことをすぐに実際の臨床で活かすことができる、とても特異な立場です。学びというものは単に知識の蓄積ではなく、それを実際の場でどのように適用し、患者さんのためにどのように活かすかが重要です。新しい知識や技術を取り入れることはもちろん大切ですが、それを日々の診療に反映させる深い考察が不可欠です。

アンチエイジング歯科は、患者さんの全身の健康と美を追求する革新的な領域です。本学会誌「華齢」においても、最先端の知識や臨床経験が数多く紹介されています。しかし、それらの情報を見るとなる知識として受け取るだけではなく、どのように臨床に応用するか、どのように患者さんの健康や生活の質の向上に役立てるかを常に考える必要があります。

今号も先進的な研究や臨床事例を共有することで、皆様の学びと考察の一助となれば幸いであります。そして、その学びが実際の臨床でのさらなる成果として現れることを心より期待しております。

この場をお借りして、ご寄稿いただいた著者の皆様、そして学会誌を支えてくださる全ての関係者に感謝申し上げます。学びと実践のサイクルを大切にし、アンチエイジング歯科のさらなる発展を共に目指してまいりましょう。

山内普史 記

## 日本アンチエイジング歯科学会誌 広報・会誌委員会

委員長 武内 博朗  
副委員長 鴨井 初子  
委員 岡田優一郎  
菊池多佳子  
柴原 孝彦  
武市えり子  
照山 裕子  
中澤 真紀  
藤峯 千春  
山内 普史

日本アンチエイジング歯科学会誌  
Vol. 16  
印刷 2023年12月1日  
発行 2023年12月8日  
発行者  
日本アンチエイジング歯科学会  
〒150-0044  
東京都渋谷区円山町5-4  
フィールド渋谷201号  
Tel/Fax 03-3477-1085  
制作者  
一般財団法人口腔保健協会  
〒170-0003  
東京都豊島区駒込1-43-9  
Tel 03-3947-8301  
Fax 03-3947-8073  
印刷所  
株式会社

日本アンチエイジング歯科学会HP  
<http://www.jd-aa.net/>

